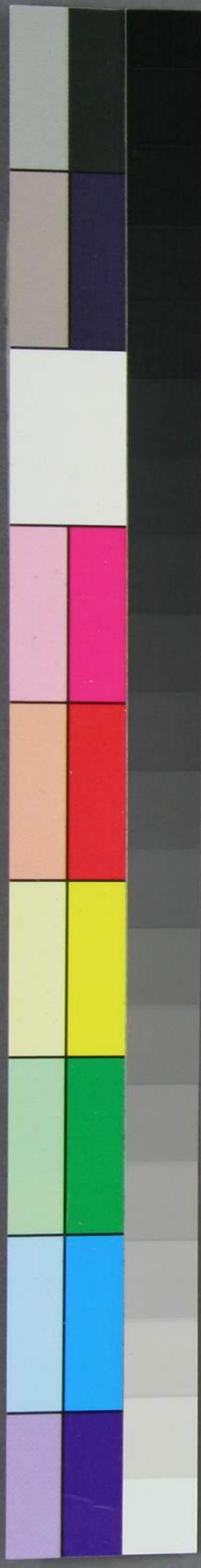




特別
 13
 3599



特

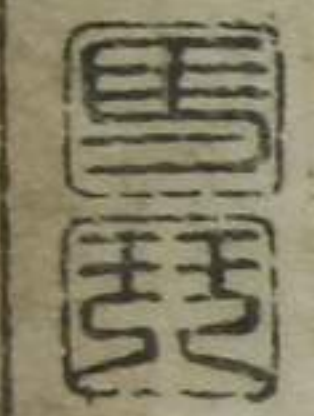
門へ 13
號 3599
卷

五大力三畫訓讀序

禍福大門なり只各の招く所に通ひ
来る本堤も唐天竺と意ゆき親と
ちり夏古人訥子名と止む五人切粉
のこ煙草さるま國府も上州館もの
さるまや浮世車さるま筆の長烟管
吸つて出は格子先洒落かんを身
まきく口の中さるま雪と是黒附
乃十五張ちと珍くく老實綴る

壬戌春帝端月

著作堂馬琴述



賣切申候切落吐序

まらるはと難し動平が三玉武智が
太筒射して物わさるわらわら
三郎が空鉄炮の又汁共湯が官耳と
丹身戯作者乃わさるわらわら
元の目公覚は明け鳥の元日今
茲を著すすまるとるる言
他の著しや口合は
やまらるは仲の言使ふ使ふ
乃志培戒破く撒下との后紙唇
終り入るもまらよ

壬戌正月 曲亭子



昭和二十六年
九月十三日
購求

ある小僧が名僧の門下に入りて
 修行の道に専念すべしと云ふに
 五丈刀と云ふ刀を授けられたる
 由りあり延文三年十月
 竹沢山入江田
 興をさるる久に
 のまうあておど
 んとせしめし
 又まへ先祖おえ
 まきりおこれと
 いまけれども
 こけいふつて
 ひむついよま
 とたあまむ
 ささるくむハ
 京教へおくり
 五丈刀のたカ
 ハ務るお望ス
 あらけり
 されども
 のれども



ある小僧が名僧の門下に入りて
 修行の道に専念すべしと云ふに
 五丈刀と云ふ刀を授けられたる
 由りあり延文三年十月
 竹沢山入江田
 興をさるる久に
 のまうあておど
 んとせしめし
 又まへ先祖おえ
 まきりおこれと
 いまけれども
 こけいふつて
 ひむついよま
 とたあまむ
 ささるくむハ
 京教へおくり
 五丈刀のたカ
 ハ務るお望ス
 あらけり
 されども
 のれども

ある小僧が名僧の門下に入りて
 修行の道に専念すべしと云ふに
 五丈刀と云ふ刀を授けられたる
 由りあり延文三年十月
 竹沢山入江田
 興をさるる久に
 のまうあておど
 んとせしめし
 又まへ先祖おえ
 まきりおこれと
 いまけれども
 こけいふつて
 ひむついよま
 とたあまむ
 ささるくむハ
 京教へおくり
 五丈刀のたカ
 ハ務るお望ス
 あらけり
 されども
 のれども



ある小僧が名僧の門下に入りて
 修行の道に専念すべしと云ふに
 五丈刀と云ふ刀を授けられたる
 由りあり延文三年十月
 竹沢山入江田
 興をさるる久に
 のまうあておど
 んとせしめし
 又まへ先祖おえ
 まきりおこれと
 いまけれども
 こけいふつて
 ひむついよま
 とたあまむ
 ささるくむハ
 京教へおくり
 五丈刀のたカ
 ハ務るお望ス
 あらけり
 されども
 のれども

有錢本僧可回
 首況是世間射

圖四

五大カバ中の巻

さておのれをいふはさきさき
 五カバの巻とてかきしり
 とあふんよちまけて
 せむぐくふやんくろ
 ぬればとていふいかく
 ともあふんよちまけて
 いりてくろくろくろ
 いんをとおさきさき
 いかんまきりし
 まちまびていり
 小あふんよちまけて
 五カバの巻とてかきしり
 とあふんよちまけて
 せむぐくふやんくろ
 ぬればとていふいかく
 ともあふんよちまけて
 いりてくろくろくろ
 いんをとおさきさき
 いかんまきりし
 まちまびていり
 小あふんよちまけて



かのつれ
 のおのれの
 いかんまきりし
 まちまびていり
 小あふんよちまけて
 五カバの巻とてかきしり
 とあふんよちまけて
 せむぐくふやんくろ
 ぬればとていふいかく
 ともあふんよちまけて
 いりてくろくろくろ
 いんをとおさきさき
 いかんまきりし
 まちまびていり
 小あふんよちまけて

切落吐の中れせん

ほどよきあふんのめり
 川はあふんよちまけて
 のあふんよちまけて
 るんねんけしりいん
 とてとられ八七ころの
 町人百枚とていふ
 けんぞうとていふ
 二つとていふ
 柳が三つとていふ
 けれどとていふ
 もあふんよちまけて
 かりぬとていふ
 これとていふ
 源太とていふ
 いちとていふ
 まきりし
 まちまびていり
 小あふんよちまけて



かんのめり
 のあふんよちまけて
 川はあふんよちまけて
 のあふんよちまけて
 るんねんけしりいん
 とてとられ八七ころの
 町人百枚とていふ
 けんぞうとていふ
 二つとていふ
 柳が三つとていふ
 けれどとていふ
 もあふんよちまけて
 かりぬとていふ
 これとていふ
 源太とていふ
 いちとていふ
 まきりし
 まちまびていり
 小あふんよちまけて

